



Cloud Volumes Service for Google Cloud をセットアップします

Cloud Manager

Tom Onacki
May 17, 2021

目次

Cloud Volumes Service for Google Cloud をセットアップします	1
クイックスタート	1
Cloud Volumes Service API を有効にします	1
Cloud Manager に Cloud Volumes Service へのアクセスを付与します GCP アカウント	1
GCP 向け Cloud Volumes Service 作業環境を作成します	2

Cloud Volumes Service for Google Cloud をセットアップします

Cloud Manager で Cloud Volumes Service for Google Cloud の作業環境を作成し、ボリュームと Snapshot を作成および管理します。

クイックスタート

これらの手順をすばやく開始するか、次のセクションで詳細を確認してください。

Cloud Volumes Service API を有効にします

Google で、Cloud Volumes Service for GCP API を有効にして、Cloud Manager がサブスクリプションとクラウドボリュームを管理できるようにします。

GCP サービスアカウントを作成し、クレデンシャルをダウンロードします

Google から GCP サービスアカウントと GCP ロールを作成し、Cloud Manager が Cloud Volumes Service for GCP アカウントにアクセスできるようにします。

GCP 向け Cloud Volumes Service 作業環境を作成します

Cloud Manager で、* 作業環境の追加 * > * Google Cloud * > * Cloud Volumes Service * をクリックし、サービスアカウントと Google Cloud プロジェクトの詳細を指定します。

Cloud Volumes Service API を有効にします

Google Cloud Shell で、次のコマンドを実行して Cloud Volumes Service API を有効にします。

`gcloud --project=<my-cvs-project> サービスは cloudvolumesgcp-api.netapp.com` を有効にします

Cloud Manager に Cloud Volumes Service へのアクセスを付与します GCP アカウント

Cloud Manager が Google Cloud プロジェクトにアクセスできるようにするには、次のタスクを実行する必要があります。

- 新しいサービスアカウントを作成します
- 新しいサービスアカウントメンバーをプロジェクトおよびに追加します IT 固有のロール（権限）の割り当て
- サービスアカウントのキーペアを作成してダウンロードします Google への認証に使用されます

手順

1. Google Cloud コンソールで、"[\[サービスアカウント \]](#) ページに移動します"
2. [[* プロジェクトの選択 *](#)] をクリックし、プロジェクトを選択して [[* 開く *](#)] をクリックします。

3. [サービスアカウントの作成 *] をクリックします。
4. サービスアカウント名（フレンドリ表示名）と概要を入力します。

Cloud Console は、この名前に基づいてサービスアカウント ID を生成します。必要に応じて ID を編集します。後で ID を変更することはできません。

5. 今すぐアクセスコントロールを設定するには、ページの下部にある「 * 作成 * 」、「完了 * 」の順にクリックして、次の手順に進みます。
6. _iam ページの _Click * Add * をクリックし、 _Add Members_page のフィールドに入力します。
 - a. [新しいメンバー] フィールドに、 user1-service-account-cvs@project1.iam.gserviceaccount.com などの完全なサービスアカウント ID を入力します。
 - b. 追加するロールは次のとおりです。
 - NetApp Cloud Volumes Admin _
 - ネットワークビューアを計算します _
 - c. [保存（ Save ）] をクリックします。
7. [サービスアカウント名] をクリックし、 _Service アカウントの詳細ページで、 [* キーの追加 > 新しいキーの作成 *] をクリックします。
8. キーのタイプとして * json * を選択し、 * Create * をクリックします。

[*Create] をクリックすると、新しい公開鍵と秘密鍵のペアが生成され、システムにダウンロードされます。秘密鍵の唯一のコピーとして機能します。このファイルは、サービスアカウントとしての認証に使用できるため、安全に保管してください。

詳細な手順については、 Google Cloud のトピックを参照してください "[サービスアカウントの作成と管理](#)"、 "[リソースへのアクセスの許可、変更、取り消しを行います](#)"および "[サービスアカウントキーの作成と管理](#)"。

GCP 向け Cloud Volumes Service 作業環境を作成します

Cloud Manager で Cloud Volumes Service for GCP の作業環境をセットアップして、ボリュームの作成を開始できるようにします。

Google Cloud Console からすでにボリュームを作成しているかどうかに関係なく、 Cloud Volumes Service for GCP にサインアップしてまだボリュームを持っていない場合は、最初に GCP サブスクリプションに基づいてボリュームの作業環境を作成します。

このサブスクリプション用のクラウドボリュームがすでに存在する場合、ボリュームは新しい作業環境に表示されます。GCP サブスクリプションにまだクラウドボリュームを追加していない場合は、新しい作業環境を作成した後で追加します。



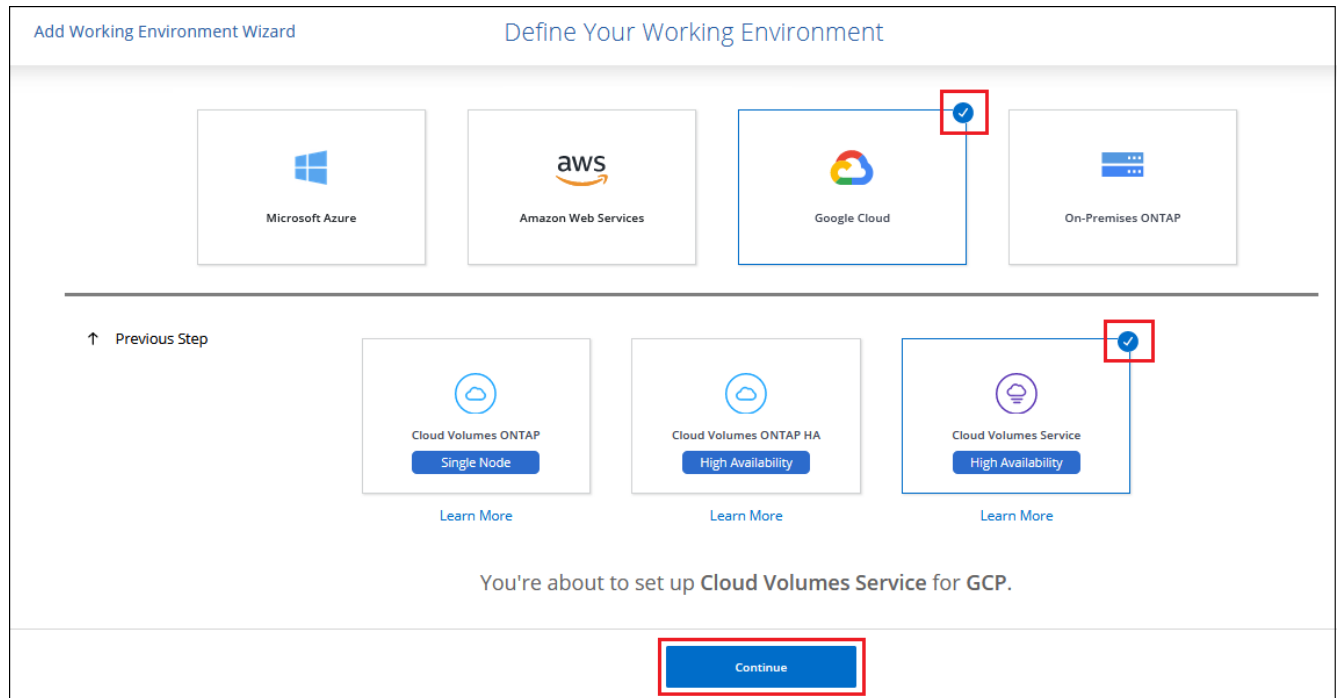
複数の GCP プロジェクトにサブスクリプションとボリュームがある場合は、プロジェクトごとにこのタスクを実行する必要があります。

各プロジェクトのサブスクリプションを追加する際は、次の情報を確認しておく必要があります。

- サービスアカウントのクレデンシャル（ダウンロードした JSON 秘密鍵）
- プロジェクト名

手順

1. Cloud Manager で、新しい作業環境を追加し、場所として「 * Google Cloud * 」を選択し、「 * Continue * 」をクリックします。
2. 「 * Cloud Volumes Service * 」を選択し、「 * Continue * 」をクリックします。



3. Cloud Volumes Service サブスクリプションに関する情報を入力します。
 - a. 使用する作業環境名を入力します。
 - b. 前の手順でダウンロードした JSON 秘密鍵をコピーして貼り付けます。
 - c. Google Cloud プロジェクトの名前を選択します。
 - d. [* Continue (続行)] をクリックします

The screenshot shows the 'Cloud Volumes Service Credentials' form. It has three main sections: 'Working Environment Name' with a text input field, 'Service Account Credentials' with a large text area for pasting JSON content and an 'Apply' button, and 'Project' with a dropdown menu showing '- Select project -'.

Cloud Manager に Cloud Volumes Service for Google Cloud の作業環境が表示されます。



このサブスクリプションに Cloud Volume がすでに存在する場合は、新しい作業環境にボリュームが表示されます。Cloud Manager からクラウドボリュームを追加することができます。

このサブスクリプションにクラウドボリュームが存在しない場合は、ここで作成します。

["ボリュームの作成と管理を開始します"](#)。

Copyright Information

Copyright © 2021 NetApp, Inc. All rights reserved. Printed in the U.S. No part of this document covered by copyright may be reproduced in any form or by any means-graphic, electronic, or mechanical, including photocopying, recording, taping, or storage in an electronic retrieval system-without prior written permission of the copyright owner.

Software derived from copyrighted NetApp material is subject to the following license and disclaimer:

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY NETAPP "AS IS" AND WITHOUT ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE, WHICH ARE HEREBY DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL NETAPP BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

NetApp reserves the right to change any products described herein at any time, and without notice. NetApp assumes no responsibility or liability arising from the use of products described herein, except as expressly agreed to in writing by NetApp. The use or purchase of this product does not convey a license under any patent rights, trademark rights, or any other intellectual property rights of NetApp.

The product described in this manual may be protected by one or more U.S. patents, foreign patents, or pending applications.

RESTRICTED RIGHTS LEGEND: Use, duplication, or disclosure by the government is subject to restrictions as set forth in subparagraph (c)(1)(ii) of the Rights in Technical Data and Computer Software clause at DFARS 252.277-7103 (October 1988) and FAR 52-227-19 (June 1987).

Trademark Information

NETAPP, the NETAPP logo, and the marks listed at <http://www.netapp.com/TM> are trademarks of NetApp, Inc. Other company and product names may be trademarks of their respective owners.